ごあいさつ

理事長
熊尾 憲昭

皆様には、平素より格別のお引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。

本年度も当金庫をより一層ご理解いただくために「そらちしんきんレポート2021」を作成いたしました。経営理念、経営方針、業績、財務内容をはじめ地域の皆様とのふれあいなど、現況をご案内させていただいておりますので、ご高覧いただければ幸いに存じます。

さて、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ」という。）拡大に伴い、世界経済や金融情勢はもとより地元経済活動や個々の生活様式までもが急変しました。国内経済は、コロナにより大幅な制約が続き、インバウンド需要及び外食消費等が低迷する中、一時は持ち直す兆しがみられたものの、依然として厳しい状況にあります。

また、管内景気におきましても、公共投資は高水準で推移し、輸出や住宅投資は横ばいの動きとなっておりましたが、個人消費が低い水準にあり、観光も引き続き厳しい状況にある等、景気持ち直しのペースが鈍化しております。

金融情勢においては、マイナス金利政策の長期化により、金融機関の収益悪化などの副作用が膨らむ中、コロナによる経済へのダメージを踏まえると、今後、信用コストなどの増加も懸念されることから、金融機関にとっては、収益性、健全性の確保に向け厳しい状況が予想されます。

このような地域経済状況を踏まえ、協同組織金融機関として、コロナ感染対策融資を積極的に対応するとともに、財務体質改善を図るため、継続的なコスト削減や、コロナ禍をきっかけとした事務の効率化に努めてまいりました。

令和2年度の決算概要につきまして、収益面では、低金利環境の中で貸出金利息が増加したものの、国債等債券売却益および有価証券利息配当金が減少し、経常収益は37億14百万円と前年比5.5%の減少となりました。一方、費用面では、国債等債券売却損および株式等売却損の減少、ならびに物件費の削減により、経常費用は30億43百万円と前年比9.3%の減少となりました。この結果、経常利益は前年比97百万円増加の6億71百万円を計上、当期純利益は、前年比93百万円増加の5億33百万円を計上しました。財務の健全性を示す指標である自己資本比率は、前年比0.56ポイント低下の16.59%となりましたが、有価証券及び預け金等の運用残高の増加によるものであり、依然として国内基準4%を大きく上回っております。また、不良債権比率は、前年比0.51ポイント上昇の2.26%となりましたが、依然として低い水準にあり、資産の健全性は充分に維持されております。

日銀のマイナス金利政策の長期化により、貸出金や有価証券等の資金運用利回りが低水準となる中、金融機関の基礎的収益力は一段と厳しい状況にあります。また、新型コロナウイルスの感染対策においては、地元金融機関として地域の感染拡大防止に最大限に努めるとともに、地域経済を守るため、事業者や個人の資金繰り支援等が求められております。

今年度新たに策定した第二次中期経営計画（3ヵ年）においては、「原点回帰による幸せづくり」を指針とし、また、その土台としてSDGs（持続可能な開発目標）を絶えず意識した取組みを念頭に、令和3年度は「総合的な支援力の発揮」「業務変革へのチャレンジ」「組織の活性化」の3つの重点施策を掲げております。

これら3つの重点施策を踏まえ、本年度は地域支援室の陣容を強化し、新たに地域支援部として立ち上げ、取引先に対する本業支援等に注力し、コロナの影響により疲弊した地域経済の回復に尽力してまいります。

また、ニューノーマルを意識した、金庫内外のデジタル化を積極的に進めながら、様々な面で業務変革にチャレンジするとともに、金庫創立100年という次世代に繋ぐ新たなステージに向けて邁進し、長期ビジョンの実現を目指してまいる所存でございますので、今後ともご支援、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。